

「都市政策研究センター オーラルヒストリープロジェクト」の概要

<プロジェクトの趣旨>

公的文書には現れず、残っていない、社会的に重要な取組や過程などに携わった当時の人々の思いや葛藤などを、語り(インタビュー)によって掘り起こし、公的文書からは見えてこない側面に光を当てる、オーラルヒストリー(口述記録)の研究手法が、近年、行政学や政治学などの分野で注目を集めている。

また、オーラルヒストリーは、研究面のみならず、公的な文化資産として人々の政策決定などに係る人々や組織の思いや葛藤を社会的に保存・継承し、後世への示唆をもたらすという社会的・歴史的な意義をも有する。

近年、国レベルではオーラルヒストリーが徐々に広がりつつあるが、地方都市ではいまだ十分ではなく、今後の展開が期待される場所である。

名古屋市立大学都市政策研究センターは、設立以来、名古屋市をはじめとして、都市の発展に資する事業を行ってきた。大都市である名古屋市では、国とは異なる立場や地域の固有性を踏まえて、独自の先進的な政策や取組を行ってきた。こうした政策や取組に携わってきた人々の思いや葛藤は、公的文書として残っていないものが少なくない。

そのため、こうした問題意識を踏まえて、また、オーラルヒストリーの意義に照らし、本プロジェクトでは、名古屋市の重要政策に着目し、当時の関係者(行政職員・NPO 関係者等)を対象として、オーラルヒストリーの技法を用いて、研究を行う。

また、成果については、センターのワーキングペーパーを中心に、社会に発信・還元する。

<コアメンバー>

- ・三宅 勝(都市政策研究センター センター長)
- ・松村智史(都市政策研究センター センター員)

<当面の予定>

- ・プロジェクトの第1弾として、名古屋市の子ども政策関係者(子ども青少年局、子育て支援 NPO 等)を対象に調査を行い、ワーキングペーパーにおいて発表する。